

僕のヒーローアカデミア episode01

エイクマン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

無個性の少年《飛電花音》彼は人の笑顔が大好きな子だ。もともと人を笑顔にするために

幼なじみの緑谷出久とヒーローになるために雄英高校を目指す……

中学3年のある日、花音は祖父と祖母に謎のベルトを一つ渡される。

沢山の人を笑顔にするため強き自分に変身する!!

『変身!』

『仮面ライダーの到ライダー!!!!』

目次

プロローグ	1
【第一話】お、俺が変身？パート1	5
【第二話】お、俺が変身？パート2	11
お、俺が変身？パート4	17

プロローグ

緑谷 side

人は生まれながらに平等じゃない

「ひどいよかつちゃん…！泣いてるだろ!?…！これ以上は」

「僕が許さやなへぞ！」

「無個性のくせにヒーロー気取りかデク！」

これは齡四歳にして知った社会の現実。

……………
だけど

「ちよーつと待った!!!」

「またお前か…！花音？」

オールマイトや、プロヒーローとはまた違うヒーローが僕には、
いる

「そう！また俺!!何回言ってるけどこんなことしちやダメだよ？みんな笑顔がいちばん!!」

凄くカッコいい……………

「そうすれば幸せハッピーでしょ？」

ヒーローだ！

「そうだ！俺の爆笑ギャグみせてあげるから！」

「ジュースう

めえと言う十数名!!はい！カノンじゃあないと！」

… カッコいいヒーローだ……………

「出久くん大丈夫？なんかあったら大声で呼んでっていつも言ってる
だろ？えんりよせずに呼んでくれよ！」

「う、うん… ありがとう花音ちゃん…！」

「いいの！いいの！これくらいお礼なんて言わなくて!!」

飛電花音ちゃん。僕と同じ無個性だけどいつも助けてくれるすごく
やさしい友達

男の子のほずなのに女の子にしか見えない…………… じつは女の子で
したって言ってくれるほうが信じられるくらいかわいい

あといつも一発ギャグを言うけどおもしろくはない…………… 本人
にとつては爆笑ギャグらしい、おもしろくないけど。

でも元気がもらえるのは事実だ。だけどこまってる人や、泣いてる

人をたすけるのはいいんだけどそのあと毎回

一発ギャグをやるのは幼なじみとして少しはずかしいところがある……

「つてあれ……花音ちゃんは？」

どこに行っただらうさつきまで隣に「あつたよ！ボール!!」

「いやあまさか池のなかにあるなんて！でもよかつた……はい！」

やっぱりすごいや花音ちゃんは……ん？

「どうしたの？そんな顔して？……そうだ！俺の爆笑ギャグみせてあげるから！」

さつき花音ちゃん池のなかにあつた言ったよね……？

「イワナ出だよ、とか言わないでよ！はい！カノンじゃあないと！」

じゃあ今、花音ちゃんの服は……

「あのお姉ちゃん服ビショビショだけどだいじょうぶ？」

「ぜんぜん大丈夫！平気平気!!」

「花音ちゃん!!ぜんぜん平気じゃないよ!?はやく帰らないと風邪ひくよ?!行こー!」

「お、おう……じゃあね!!もうボールなくすんじゃないぞー!」

本当にやさしいなあ花音ちゃんは… 僕もがんばらないと!!!! ぜったいに

「ヒーローになるぞー!!」

「うお!?ビックリした… おー!!」

【第一話】お、俺が変身？パート1

事の始まりは中国軽慶市“発光する赤子？”が生まれたという
ニュースだった！

以降各地で「超常」は発見され原因も判然としないまま時は流れ
る…

いつしか「超常」は「日常」に…

ゆめ げんじつ

「架空」は「現実」に!!!

世界総人口の約八割が何らかの特異体質である超人社会となった
現実！

混乱渦巻く世の中で！かつて誰もが空想し憧れた一つの職業が
脚光を浴びていた!!

《くるんじや

ねえええええ!!!
!!!

「怪物化とかすげー」個性？何やらかしたん？」「引ったくり、追い詰
められて暴れたんだと」

ヴィラン

「・敵・出ちやって… 電車も… ええ会社着くのいつになるか…」
「キヤーガンバレーカムイー!!」

プハ「誰戦ってます!?」 (緑谷出久) <14歳>

「通勤時間帯に能力違法行使及び強盗知傷…」まさに邪悪の権化
「よ」

「(シンリンカムイ)!! 人気急上昇中の若手実力派!!!」

「聞いたって解説か？兄ちゃん…オタクだな!!？」
うへへ…」

「あ いや

ちようかい

「懲戒」 「一発見せろよ樹木マン!!」

「あ！出ますよ

！」

せんせいひつば

く…

ウルシさろう!!!

「先制必

縛…」

「ウルシ鎖牢!!!」

「先制必縛…」

「ウルシ鎖牢!!!」

「!?」

■ ■
キャニオンカノン

!!!!!! ■ ■

<キタコレ><キタコ

レ><キタコレ><キタコレ><キタコレ><キタコレ><キタコレ>

「本日デビューと相成りました!…:… M t. レディと申します
!以後おみシリ!おきを」

“ 超常?に伴い爆発的に増加した犯罪件数。法の抜本的改正に国
がもたつく間

勇氣ある人々がコミックさながらにヒーロー活動を始めた

“ 超常?への警備!悪意からの防衛!

たちまち市民権を得たヒーローは世論に押される形で公的職務に
定められる

彼らは活躍に応じて与えられるんだ…:…:…

「国から収入を

!!!」 「人々から名声を!!!」

「あー確か爆豪は〔雄英高〕志望だったな」

「国立の!?今年偏差値79だぞ!!」 「倍率も毎度やべーんだろ!?!」

「そのざわざわがモブたる所以だ! 模試じゃA判定!!俺はウチ唯一雄英圏内!」

「あのオールマイトをも超えて俺はトップヒーローと成り!!必ずや高額納税者ラシキングに名を

刻むのだ!!!」 「あ」

「そいやあ緑谷雄英志望だったな」

「はああ!?緑谷あ!?ムリっしょ!!」 「勉強出来るだけじゃヒーロー科入れねえんだぞー!」

『そんなことはない!』

「ツハア... やつと来たか飛電何で遅れたんだ... とは言わなくても、もうわかる大丈夫か?」

「ボロボロだが...」

『大丈夫です!こんなの平気平気。つあ!出久君!おはよ!!』

「花音ちゃん...!お、おはよう...」

花音ちゃんまた人助けしてたんだ... 凄いや、やつぱり...」

「こらあ!!お前ら!!!」(BOOOM!!!)
「どわ!!?」

「没個性どころか〃無個性?〃のてめエらがあゝ! 何で俺と同じ土俵に立てるんだ!!?」

「待つ…ち、違う 待ってかっちゃん…! 別に張り合おうとかそんなの全然、本当だよ!

ただ…小さい頃からの目標なんだ… 花音ちゃんとの…それに やってみないとわからないし…」

そうだ、ずっと目標だったんだ… ヒーローになるのが花音ちゃんと一緒に困ってる人をたくさん助けるのが… 花音ちゃんも笑顔が大好きだから小さい頃からヒーローになりたいっていつてたし…

「なアにがやってみないとだ!!!記念受験か!!」

【てめえらが何をやれるんだ!?!?】

『出来るよ!!絶対に出来る!出久君はすごいんだよ!困ってる人を沢山助けられるヒーローに

必ずなる!笑顔に出来るヒーローに必ずなる!勿論、俺もなる!!人を沢山笑顔にするヒーローに

なる!その心が有れば何だつてやれる!!!だから俺たちは雄英高校を受ける!!』

「意味わかんねえ事言ってるじゃねえ!?!?」

『とにかく！俺と出久君は雄英高校を受ける!!それだけじゃあこの話
終わり!』

「勝手に終わってんじゃねえ!?!ぶっ殺すぞ!!」

『怒るなって そうだ！俺の爆笑ギャグ見せてあげるから!!』

ええ... 花音ちゃん今やるの... ?やめといた方が... ..

「別に見たくもねえんだよ！お前のクソつまんねえギャグなんて!?!?」

『メール等送信で、滅入る闘争心！はい！カノンじゃあないと!!』

「だから見たくもねえって言ったんだよクソが！ぶっ殺すぞ!!」

.....
だからやめといた方が良かったのに.....

【第二話】お、俺が変身？パート2

「花音… 将来は何になりたい？」

『ヒーローになりたい！たくさんの人を笑顔にするヒーローに!!もちろん父さんも笑顔にする!』

「そうか… 頑張れよ、花音。」

「か… のん… …… だ… いじ… よ… ぶ… …… か… …… ?」

『父さん!!やだ!やだやだやだ!!!死なないで…!』

「かの… ん… …… へ… …… ん… し… …… ん… …… し… ろ… …… つ… …… よい… …… じぶ… …… ん… …… に… …… ……」

『父さん!!!』

花音side

『父さん!!!… …… 何だ夢か… …… 寝よ』

今日はまだ日曜日のはず… …… だって目覚まし鳴んないって事は設定してないって事だし

アラームONが、あらー無音… …… はい、カノンじゃくないと… …… ……

?… …… 無音… …… ?確か昨日… …… ばあちゃんが目覚まし壊れてる

「花音ちゃんが遅刻ばかりしてることなんて知ってるわよバレバレよ?。」

「それに花音ちゃんの遅刻の理由は寝坊か、人助けじやろ!。」

ま、まじですか…… バレバレですか…… アハハハ…… ??

『じゃあ何で呼んだの?』

「…… 花音ちゃん、其雄を…… お父さんを覚えているか?。」

『当たり前じゃん!!父さんを忘れるはずないよ……』

だって俺のせいで父さんは死んだんだ…… 俺に力があつたら……

「其雄は、お父さんはね、ヒーローのサポート製品を開発してる会社の社長だったの。」

っえ…… ?父さんが社長???

「花音ちゃんも知つての通りむしろ飛電家のほとんどは無個性じゃ……」

もちろん其雄も無個性じゃつたら?。

だが其雄はある物を造り出した無個性でも個性持ちに負けない力を……それがこれじゃ……」

何だ…… これ?ベルトのバックルかな??二つもある……

「こつちが滅亡迅雷フォースライザー、そしてこつちが飛電ゼロワン

ドライバー、まだベルトは他

にもあるが今は使えない……花音ちゃん、こつちのフォースライザーを持っていてはくれんか？」

『つえ？でも大切な物なんじゃ。』

父さんが造ってじいちゃんとかあちゃんに渡した大切な物を受け取れるはずがない……それに俺が

受け取る資格なんて……

「使わなければ意味ないわよ。それにこのベルトは全部、花音ちゃんのために其雄が造ったのよ」

『父さんが俺のために??どうして』

「其雄はいつも花音ちゃんの事を考えてた……どうしたら花音ちゃんのためになるか。

どうしたら無個性でも個性持ちにも負けない力を、花音ちゃんの夢を叶えるための……

ヒーローになるための力をそうして寝る間も惜しんで開発したのがライダーシステム

「仮面ライダー」じゃ。」

『仮面ライダー?』

「花音ちゃんが心から今は使うべきだと思ったたらそのベルトを腰に装着しなさいそうすれば

後は頭のなかに入ってくるわ」

これを使えば俺も力が手に入る……… 沢山の人を笑顔に出来

る。

そんなの答えは決まってるじゃないか……

『使わせてもらうよ！じいちゃん、ばあちゃん、父さん!!』

強い自分に変身するんだ!!

お、俺が変身？パート4

PM0:02

・キヤアアア!!!

「強盗だア!!!誰かああああ!!」

【捕まえられるもんなら、捕まえてみなあ!!!】

「すぐ誰か来るのにな」「今朝の混乱に乗じたんだろ？個性もて余して
る奴何ていくらでもいるし

「キリねえなー」

「キリはある…何故って？」

「私 came!!」

緑谷 side

「カラオケ行こーよ」「それつきやねーな！」

今朝の事件ヤフトップだ！早く帰ってノートにまとめな
きや…………

『出久君！帰ろうぜ？』

「っあ、花音ちゃん！そうだね帰ろっか」

………… それにしても花音ちゃん成長したら男らしくなるのかなっ
て思ったけど………… 何かもう完全に女子！

制服に違和感しかない!!!!個性の影響ですって言えるくらいだよ……僕と一緒に無個性!だけど

『出久君どうしたんだ、固まって?』

「っ!ご、ごめんねちよつと考え事してた…」

『そっか!でも出久君いつでも俺に相談してくれていいんだぜ?昔から言ってるだろ出久君が助けて欲しいときは必ず助けにいくって!遠慮しないでいいんだからな!!』

「うん、ありが「話はまだすんでねーぞデク、花音」

「カツキ何ソレ?」「[将来のための…]マジか!?くゝ緑谷く!!」

『おい!返せよ!そのノートは出久君の大切なノートなんだ!』

「ああ?そうかな…それがどうしたあ!」ボム!!!

「あー!?!?!」

っそ、そんな!?!ぼ、僕の!?

「ひどい…!!」

「二線級のトップヒーローは大抵学生時から逸話をのこ『出久君のノートが!?!待て!!!』」

…?!?!?!花音ちゃん?!?!つえ!ちよつ今花音ちゃん飛び降りたよ

ね…?!?!?!?!

「花音ちゃああん!!!!」

「おい、大丈夫なのか…今あいつ今ノートと一緒に飛び降りたけど…カツキ?死んだらどうすんだよ

幼なじみだろ」

「大丈夫だろ… 花音は、昔からあんな感じだ…」

確かにかつちゃんの言う通り花音ちゃんは昔からいつも変わっていない… 体、丈夫だよね… アハハ

「つまあい、俺はこの平凡な市立中学から初めて！唯一の！【雄英進学者】 つつー” 箔？”をつけてーのさ。まー完璧主義者なわけよ」

みみっちい…

「つーわけで一応、雄英受けるなナードくん」

「……………」

「いやいやさすがに何か言い返せよ」「言つてやんなよかわいそうに中三に、なつてもまだ彼は現実が見えてないので」

「つあーそんなにヒーローに就きてんなら効率良い方法あるぜ？ 来世は個性が宿ると信じて屋上からのワンチャンダイブ!!」

「つ!!!」

『いい加減にしろよ!?!』

「んだよ?」

『いくら勝己君でも！許すわけにはいかない!! 早く出久君に謝れ!!!』
「うっせえ！何だ謝んなきや行けねえんだよ!?! ぶっ殺すぞ!?!」

『勝己君はソレしか言えないのか!』

「うっせえ!!どけえ!!!」

『うわ!?!』

『… 出久君気にすることないって無個性がヒーローになれないなんて誰が決めたんだよ？ 出久君は絶対にヒーローになれる！俺が保証する！』

「うん… ありがとう花音ちゃん」

『はい！ノートちよつと濡れちゃった… ごめん』

「ううん全然大丈夫だよ！」

やっぱりすごいや花音ちゃんは… 優しいし、いつも励ましてくれる僕はいつも助けられてばかりだ

お母さーん パソコンー！

「またあ!? もー出久だけで再生回数一万は増やしてるね お母さんは怖くて見れんわ、花音ちゃんも怖くないの?」

『ぜーんぜんこわくないです!』

それは古い動画 昔から起きた大災害その直後の…

「見えるか!!? もう百人は救い出してる!! やべえって!! まだ10分もたってねーって!! やべえって!!!」

一人のヒーローのデビュー動画だ

「めっちゃ笑ってんよ!!!」

「もう大丈夫! 何故って!？」

「私が来た!!」

「超カッコいいなああ!!僕も個性出たら、こんな風になりたいなああ!!」

『出久くんぜったいになれるよ!すごく優しいもん!!』

「あ、ありがとう花音ちゃん!」

「諦めた方がいいね」

「そんな...!やっぱりどこか悪いんですか?幼稚園の子たちはもうほぼ発現してるのにこの子は...」

「失礼 奥さんは第四世代ですね?個性の方は...」

「ええもちろん... 私はちよつとしたものを引き付けるくらいで夫は火イ吹きます」

「本来なら四歳までにそのどちらかあるいは複合的個性が発現するんだけどね昔超常黎明期に一つの研究結果発表されてね足の小指に間接が有るか無いかって流行ったの人間使わんとこは必要ないってなもんでね無い人の方が型としてはまア新しいと!」

「出久くんには間接が2つあるこの世代じゃ珍しい...」

《何の“個性”?も宿ってない型だよ》

「めっちゃ笑ってんよ!!!」

「... お母さん」

「どんなに困ってる人でも笑顔で助けちゃうんだよ」

「超カッコいいヒーローさ……… 僕も……… なれるかなあ？」

「ごめんねえ出久ごめんね……!!」

ああ違うんだ　違うんだお母さんあの時　僕がいつてほしかったのは………

花音 s i d e

俺には父さんがいた優しくてかつこよくて大好きだった

ある日父さんと一緒に公園に行ったとき男の子がいたそれが出久君だった。一緒に遊んですごく楽しかった俺の爆笑ギャグは

何故か笑ってくれなかった、いつか絶対にギャグで笑わせようと心に決めた

夕方になって父さんに帰ろうと言われたときは出久君と離れたくなくて大泣きしたら出久君はまた遊ぼうとってくれて

もう友達だよと言われた瞬間めちやくちや嬉しかった。この瞬間は人生で忘れることはないだろう

そのあと出久君と遊んでるうちに勝己君とも出会った友達が増えてすごく嬉しかったな

ある日ウイルスに襲われた　もうここで死ぬんだと思った
父さんが僕を庇った

父さんは重症なのに何故か笑っていた　俺に泣いてほしくない最

後に一緒に笑いたいって言っていた

その時の俺はうまく笑えてたかわからなかったけど…父さんもは嬉しそうだったから笑えてたんだと思う

最後に強い自分に变身しろと言って父さんは死んだ

その日からは人助けを今まで以上に頑張った

じいちゃん、ばあちゃんと病院に言ったら無個性だと診断された

夜、出久君から電話がかかってきた出久君も無個性だった、その時から俺は決めた出久君を守ろうって

出久君は一番の友達だから……

強くなる!!!出久君を守って沢山の人を笑顔にするそんな自分に变身するんだ!